

令和3年7月30日

照明演出における効果について

東放学園音響専門学校 音響芸術科

2年I組 松田杏

2年I組 八戸彩寧

2年H組 難波龍弥

目次

- 1.研究動機
- 2.照明の種類について（演出例含む）
- 3.舞台での照明演出（演出例含む）
- 4.陰影の使い方（演出例含む）
- 5.まとめ

1.研究動機

ライブ、舞台における照明の重要性はどのように考えているだろうか。ライブ、舞台における照明は、なくてはならない物だと私達は考えており、話し合った結果、研究テーマは照明にスポットを当て知識を深めようとなった。ライブ業界に行く以上、知っておくべき知識だが、学校での授業はない為、自分たちで調べようということになった。

この研究では、まず照明の種類について調べたのち、コンサートステージ、舞台での使用方法の違い、照明の光から生まれる光の陰影について調べる。そして、演出例を自分たちで考え、図としておこす。

最後にライブ、舞台において照明が、いかに大切なのか述べていきたい。

2.照明の種類

照明と言っても種類が様々ある。

コンサートホールや、ライブハウス、アリーナステージ、野外ステージと様々なステージがある中で今回はコンサートホールに焦点を当てて調べてみた。

理由としては、キャパ数も多く、様々な用途で使用されやすいからである。

まず、他のステージにはなく、コンサートホールにあるものとして Horizont というものがある。



舞台の背面一面に光を当て、舞台全体の色を占めている。

上部と下部で色を分けることもでき、グラデーションのように使うことも可能である。

次に、フットライト、バックフットライトである。

この照明は言葉通り、足元に置かれている。



Horizontに向けてフットライトを演者に当てると影ができる演出も、人気が高く、様々な用途で使われている。

映画の披露試写会で演者の影を幕に映し、観客を煽る演出は、このバックフットが使われて降り、紗幕という幕の後ろに演者に立ってもらい、そこに光を当てることで成り立っている。(以下画像参照)



コンサートでも登場シーンによく使われる演出の1つである。

続いてサイドサスである。

サイドサスはSSで略される事があり、エスエスと読む。SSは各幕の後ろに設置され、横から演者に光を当てる。



矢印のものがサイドサスになる。

顔の高さのものだから頭上のものまで様々あり、演者の顔に光を当てる。

そして、ピンスポットライトである。

ピンスポットライトは主に演者単体に当てるライトで他の照明とは違い、大きいステージ

では、人がその照明を動かして演者に当ててるのである。

この照明を当てること、その場面では誰を見るべきなのか分かり易い効果もある。



最後にムービングライトである。

ムービングライトは簡単に言うと動くサスである。

勿論舞台上には動かないサスもあるが、今回はムービングライトに重きを置いて調べた。

ムービングライトは、様々な動きが可能であり、速さも調整する事ができる。

舞台女から客席に動かすこともあれば、舞台上に光をクルクルと落とすことができる。

ムービングライトは LIVE では欠かせないもので、大きなドームなどでも活躍するものの1つである。



そして、このサスには柄をつける事ができ、演出の用途に合わせて使用する事が可能である。(以下画像参照)



柄は会社によって扱っているものが違う為、柄表などを頂いて選んでいく。

このように、照明と言えど様々な種類があり、使う用途によって何を使うかは変わってくるのである。

3.舞台での照明演出

上記では、ライブなどで使用する照明の使い方を記してきたが、次はその照明を舞台で使う場合どういった形で使用するのか調べたものをまとめていこうと思う。

まず、舞台では、ライブのような、使い方はあまりしない。

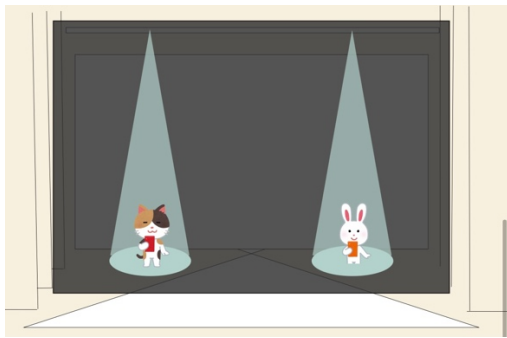
舞台での照明は、きっかけ、場面展開、状況説明などで使われる事がある。

照明を落とすことで、舞台一面で起きている出来事をより、リアルにする事ができる。

例えば、離れたところで電話する A という人物と B という人物が 2 人立ち、離れているところから電話をかけるシーンがあるとする

この場合、2 人に上手下手の端の方に立ってもらいサスを 2 人に一つずつ落とす。

そうすることで 2 人が別の空間にいるという演出が成立するのである。



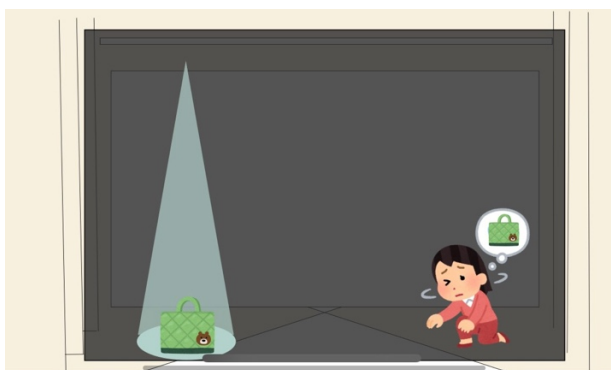
このように、光を落とすことで、別空間を生み出す事ができ、現実ではあり得ない状況を可能にする事ができるのである。

他にも、物を探すシーンがあるとする。

この場合、演者にはピンスポットライトを当て、舞台上を自由に動いて貰い、対象物を探してもらう。

タイミングをずらし、元から置いてあった対象物に上からサスを一つ落とすことで、対象物が見つかるという演出も可能になる。

演者が一生懸命に探しているというシーンが完成するのである。(以下画像参照)



以上のように舞台演出の照明では、ライブと違った使い方をされているのである。

4.陰影の使い方

陰影とは、光を落とすことによってできる、影を意味する。舞台ではこの影をも、演出の一つとされるのだ。

光の陰影を使い、表情の見え方など演者の表情へのサポートとしても使われている。

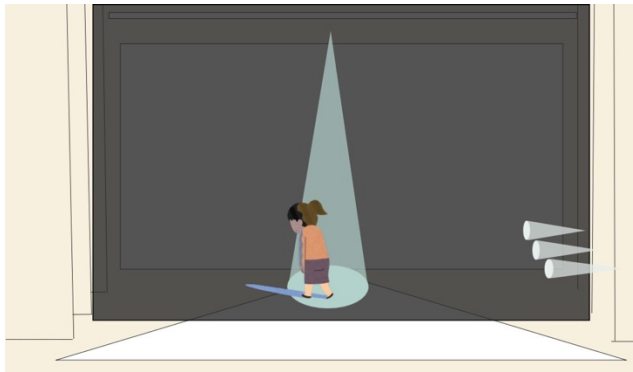
明るい表情では、顔いっぱいに光を当てることで、明るい印象にする事ができるのは勿論である。

落ち込んでいるシーンはどうだろうか。

照明は暗すぎても、明るすぎてもダメである。

色は勿論のこと、光の刺し方で変わってくる。

例えば、落ち込んで下を向いているシーンがあるとする。この場合、顔全体に照明を当ててもいいが顔半分に照明を当てることで影ができ、味を出す事が可能である。とすると、演者がきちんと見えるように上からサスを落とす、そして、反対側からSSを当てることで顔に影を作る事ができる。



照明の落とし方によって人の喜怒哀楽までも表現する事ができるのだ。

5.まとめ

今回はコンサートホール、舞台演出にスポットを当てて調べたが、まだまだ学ぶ事が多い。業界に入るにあたって知っておくべき事であると思うので、探究心を持って、ライブに行く際は照明に注目していきたい。

又、今回をきっかけに、いかに人によって作り出される舞台が凄いのかを痛感した為、リスペクトを持って一つ一つのライブ、舞台を大切に見ていきたいと思えた。